

英 語

▼2025年度入試 大問別出題分野など

学部	番号	分野	英文内容・出題内容	設問	難易度	解答数
特別奨学生入試	I	英文読解 (長文)	ベスピオ山の噴火によって火山灰に埋もれたポンペイの人々の暮らしぶりなどが発掘によって明らかになったこと	空所補充問題(7問)・アクセント問題(5問) 下線部語句の意味(2問) 語句の並びかえ(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	16
	II	文法・語法 など	イディオム(会話特有の表現を含む)・準動詞(不定詞・動名詞・分詞構文)・関係副詞・仮定法・語彙など	適語選択形式	標準	10
	III	英文読解 (長文)	ネコと人との関係性(古代エジプトや古代ローマでは人々の寵愛を受けてきたが、中世では迫害を受けていたこと)	英文中の空所補充(3問) 下線部語句の意味(1問) 本文やパラグラフの内容など(2問) 内容不一致文選択(1問)	標準	7
	IV	会話文	息子と母親との会話で、息子の事を心配している母親と、息子の彼女との三人で食事をすることになったこと	英文中の空所補充(4問) 下線部語句の意味(2問) 内容不一致文選択(1問)	標準	7
一般入試 A・B方式 共通 (前期)	I	英文読解 (長文)	東洋だけでなく、世界中で一般的に施術されている針治療が効果的である理由などの説明	空所補充問題(7問)・アクセント問題(5問) 下線部語句の意味(2問) 語句の並びかえ(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	16
	II	文法・語法 など	イディオム(会話特有の表現を含む)・準動詞(分詞構文)・関係代名詞・仮定法・助動詞・前置詞など	適語選択形式	標準	10
	III	英文読解 (中文)	狼煙(のろし)や楽器など、遠く離れた人と連絡を取るための古来からの様々な方法	英文中の空所補充(5問) 下線部語句の意味(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	7
	IV	会話文	スウェーデンの気候(冬の寒さや夏の短さ・夏の白夜など)や人々がサウナ好きであること	英文中の空所補充(5問) 下線部語句の意味(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	7
一般入試 保健医療学部 経営学部 (後期)	I	英文読解 (長文)	人間は、動物ほど、鼻もよくなければ、声を出す力も強くないが、言語を持っていいる唯一の存在なので、「最も素晴らしい意思の伝達者」だと言えること	空所補充問題(10問) 下線部語句の意味(2問) 語句の並びかえ(1問) 内容一致文選択(1問)	標準	14
	II	文法・語法 など	イディオム・準動詞(動名詞・原形不定詞)・接続詞・関係代名詞・所有代名詞・仮定法など	適語選択形式	標準	10
	III	英文読解 (長文)	地震に法則性はあるのか、あるいは法則性はなく、予測不可能なのかという問い合わせに対して、科学者は予測可能だと考えていること	英文中の空所補充(3問) 下線部語句の意味(2問) アクセント問題(1問) 内容不一致文選択(1問)	標準	7
	IV	会話文	久しぶりに再会した友人が、教育学を専攻していたにもかかわらず、輸入品を扱う会社の経営者になっていたこと	英文中の空所補充(5問) would の用法(1問) 内容一致文選択(1問)	標準	7

英 語

▼傾向

《出題形式》

全ての入試方式で、100 パーセント選択形式の客観問題が出題される。また、いずれの方式でも英語は選択科目の 1 つとなっている。従って、得意、不得意という自分の思い込みだけではなく、過去問の出来などで慎重に受験科目を選択する必要がある。また、選択肢は 4 択主体だが、大問 I、III、IV の問 1 のような英文中の空所補充問題では、いずれも伝統的に選択肢が 10 択と非常に多い。

《出題内容》

全ての入試方式で、大問は 4 題で出題内容もほぼ同じである。内容は、英文読解問題が 2 題、イディオム・文法・語法などに関する問題が 1 題、会話文が 1 題となっている。近年、設問数は全体で各 40 問の構成であったが、今年度は後期日程で 38 問の出題となり、後期日程の設問数で少し変化が見られた。

一見、読解力重視の出題のように見えるが、本学の出題の大きな特徴は、伝統的にイディオム・文法・語法、アクセントなどの知識問題のウェートが非常に高いことにある。空所補充問題は、いずれの入試方式でも全設問数の約半数を占めるほどウェートが高く、アクセントに関する問い合わせも、今年度の後期日程ではわずか 1 題の出題であったが、例年は 5 題と多い。大問 II の知識問題については準動詞（不定詞・分詞・動名詞）・イディオム・比較・仮定法・語法・疑問詞や関係詞・前置詞などに関する問い合わせは頻出である。また、2 つの英文読解問題や会話文の中で出題される空所補充問題では文脈で解かせる問題だけでなく、知識問題が頻出であり、疑問詞と関係詞、前置詞と接続詞などに関する文法・語法やイディオムが伝統的によく問われる。

要するに、1) 英文中の空所補充問題、2) 文法・イディオムなどに関する問題、3) アクセントに関する問題が出題の三本柱であり、1) では伝統的に英語の知識を使って解かせる問い合わせが主体であったが、近年は純粋に前後の文脈で解かせるものも増加傾向にある。

また、内容に関する問い合わせでは、伝統的に、会話文を含む全ての英文読解問題で内容不一致文を選ばせる問い合わせが必出であったが、近年は段落の内容や文全体のタイトルを選ばせる問い合わせも出題されており、内容一致文を選ばせる問い合わせも見られる。

《難易度》

標準的なレベルの問題が中心である。英文中の空所補充問題では、伝統的にやや難度の高い問い合わせも散見されたが、近年はそれが出題されなくなり、全体的にやや易化したように思われる。ただし、選択肢が 10 択で、不要な選択肢も多いので、正確な知識が求められ、一筋縄ではいかないことに変わりはない。また、語句の並びかえ問題の難度は比較的高いので、この問題にはあまり時間をかけ過ぎないほうが賢明であろう。

英 語

▼対策

《英文中の空所補充問題など》

本学の英文読解問題の大きな特徴は、英文の内容に関する問い合わせほど多くなく、英文中の空所補充問題が非常に多いことにある。空所補充問題は、大問Ⅰの英文読解問題、大問Ⅲの英文読解問題、それに大問Ⅳの会話文で出題され、合計すると約14問～18問となり、全設問中の約半分弱を占めるほどである。従って、空所補充問題対策が合否の鍵を握っており、その対策は必須である。いずれの問題でも、文法知識やイディオムが解答に関係していることが多く、文法力などの知識力を充実させておくことが非常に重要である。特に、関係詞・疑問詞や前置詞・接続詞は非常によく出題される。これらには様々な用法があるので、重点的に学習しておくことが望まれる。

また、今年度は大問Ⅲの英文読解問題で長文化の傾向が見られるので、今まで以上に速く内容を読み取る必要がある。内容に関する問い合わせでは伝統的に不一致文を選ばせる形式が定番であるが、選択肢が日本語であることが多く、本文中の該当箇所を細部までチェックしないと正答は得られない。また、後期日程では、選択肢が英文の形で出題されており、英文読解力重視の傾向も見られるので、英文読解力の強化は必須である。

《アクセント問題》

近年はアクセント単独問題の出題が続いているが、設問数が5問と定着していたが、今年度の後期日程ではわずか1題しか出題されなかった。しかし、来年度もその傾向が続くか分からぬので対策は怠らないほうがよいだろう。

アクセント問題については、重要なアクセントの法則などを知っていると非常に有効である。

《文法・語法などの問題》

文法問題は英文読解や会話文の空所補充問題の中でもよく問われるが、文法事項を総合的にまとめた問題集を一冊マスターしておくことが望まれる。英文中の空所補充問題と同様に、前置詞と接続詞の違い、疑問代名詞と疑問副詞の用法の違い、それに関係代名詞と関係副詞の用法の違いはよく問われるが、その違いなどを十分に理解しておく必要がある。また、最近は口語的な慣用表現も含めて、イディオムに関する問い合わせが増加傾向にあることや、英文中の語句の並べかえ問題でも鍵を握っているのは文法・構文・イディオムの知識であることが多いことから、文法・語法だけでなくイディオムを含めた知識の強化の重要性は変わらない。

▼重要ポイント

本学では出題傾向があまり変わらないことや、本学に特徴的な独特的な出題内容が多いことから、数年分の過去問を徹底的に反復してやり込むと効果的であろう。そうすることで、実力以上の得点が見込めるようになるだろう。